

フレッシューズゼミA		演習	担当教員共通 (科目主任) 平沢 信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目 スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	11130101	

1. ゼミのねらい・概要

本科目は、所属ゼミ生と担当教員、あるいはゼミ生相互の交流を深めるとともに、大学での学修の要諦である専門ゼミ、卒業研究への導入、および本学在学中のキャリアアップの動機づけとしての役割を果たすことを目的に設けられた1年次の必修科目である。コース独自の教育内容を行う柔道整復師コース・救急救命士コースを除くゼミでは、全担当教員共通の下記の指針により実施される。

- ①与えられた、あるいは自ら考えた課題をまとめるために必要な情報を収集・取捨選択し、それを口頭報告のレジュメ、レポートの作成へとつなげていくための能力を養う。
- ②学生生活において、日常的に求められる日本語能力を養う。
- ③就職活動を行う際に必要となる基礎的な数的理解力・一般常識を養う。

2. ゼミ計画

1. 履修指導	9. 担当教員によるゼミ内融和促進のための企画
2. 政治①～民主主義、日本国憲法※	10. 担当教員による一般常識涵養のための企画
3. 政治②～外交※	11. 担当教員による課題作成能力アップのための企画
4. 政治③～人口減少※	12. 図書館の活用について
5. 経済①～景気※	13. 健康保持とネチケット(全体ゼミ)
6. 経済②～産業、エネルギー※	14. 防犯・交通安全対策講話(全体ゼミ)
7. 暮らし①～社会保障※	15. キャリアアップのための指導 第1回(全体ゼミ)
8. 暮らし②～働き方※	

※は、主にテキストをメインとする授業内容。ただし、それ以外でもサブ的に使用する場合がありますので、テキストは毎回必ず持参すること。なお、各回の順番は、外部講師来校の都合やゼミ担当教員の方針により変更して実施する場合があります。

3. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキスト、あるいは科目担当教員からの指示事項について毎回2時間以上の予習、復習を行う。

4. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間中の課題やグループ学習による成果、および定期試験に対して、各ゼミ担当教員が適切な方法（個別の講評や添削、あるいは解答のポイントなどの説明）によって、フィードバックを実施する。

5. ゼミにおける学修の到達目標

7. に挙げたテキストの内容について理解を深める事、および担当教員・ゼミ生との良好な人間関係が構築できること。

6. 成績評価の方法・基準

本科目は、テキストを使った全ゼミ共通で行う内容と、全体ゼミおよび担当教員がそれぞれの専攻分野を生かした独自の内容を行う部分により構成される。前者については、定期試験の際に実施される共通テストの点数（50%）により、後者については授業時間中の課題に対する取り組み、グループ学習における参加状況等（50%）によって、成績評価を判定する。

7. テキスト・参考文献

『2026年度ニュース検定公式テキスト&問題集』、日本ニュース時事能力検定協会編
参考文献：ゼミ担当教員から適宜紹介される。

8. 受講上の留意事項

本科目で使用するテキストを携行していない場合には授業に参加することができない。したがって、テキストを持っていない受

講生は授業の出席を認めない。テキストは必ず購入し、毎回持参すること。このことは、テキスト付属の正解・解説についても同様である。

なお、学期内にすべてのクラスが合同で行う全体ゼミ(セミナー・説明会等)の際には、遅くとも授業開始5分前には入室・着席すること。遅刻すると入室できない場合がある。

9. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

コンピュータリテラシA		実習	複数教員	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 教職科目 柔道整復師コースの必修科目 教職科目 救急救命士コースの必修科目 教職科目		科目ナンバリング	11120101 11510108 12120101 12510108 13120101 13510108

1. 授業のねらい・概要

大学生及び社会人としての活動においてコンピュータおよびインターネットの活用は不可欠と言える。これらを効果的に利用するのに必要な基本的能力の育成を目標として、パーソナルコンピュータの基本操作、インターネット(WEB や電子メール)の活用、ソフトウェアを使用した見やすい文書(レポートや報告書)作成技術を学修する。

各科目の履修において必要となるオンライン学習補助ツール、電子メールの受信・送信・ファイル添付等の基本操作についても繰り返し指導する。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った演習形式を基本とする。必要に応じ成果物提出も課すことにする。

3. 授業計画

1. ガイダンス・各種サービスログイン, 授業準備	9. 表操作
2. 基本的な操作	10. 表編集
3. タッチタイピングと様々な文字入力	11. 計算式, 共同作業
4. 範囲指定, コピー/切り取りと貼り付け	12. 差し込み文書
5. 文書を装飾する	13. ワードアートと図形
6. 社内文書, 社外文書	14. スマートアートと画像, グラフ
7. ページの設定	15. アウトライン他、まとめ及び模擬試験
8. 表現を整える	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、教科書や配布物/プリント/Web に公開された情報等を用い復習しておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の練習問題に関しては時間内に説明を行う。必要なら講義終了後に個別に対応を行う。

事前に模擬試験等を実施し、解答例から出題意図や確認事項等を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

パーソナルコンピュータの基本操作を理解し、要求される文書の作成はもとより、ファイルの管理(フォルダや作成済ファイルの扱い、圧縮ファイルや変名)、ファイルを添付した電子メールの送受信を行うことができる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢(50%[提出課題等を含む])及び定期試験の結果(50%)を基本とし、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

『繰り返して慣れる!完全マスターWord Office365・Office2019 対応』noa 出版 を使用する。毎回の授業に必ず持参す

ること。

9. 受講上の留意事項

疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報社会とコンピュータ		講義	准教授 関川 弘	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103	

1. 授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において、日常生活、企業活動、地域活動をスムーズに行うためには、コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに、人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では、数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベルの素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、講義後に授業内容のサマリーの提出を求め、その内容について講義でディスカッションする。また、海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

3. 授業計画

1. コンピュータでデータを作る	9. データの処理
2. 新たな社会の発展段階	10. 企業における情報システムと AI の活用
3. ビッグデータの収集、蓄積、活用	11. 観光をデータから見る
4. 人工知能と機械学習を知る	12. 医療とデジタル
5. コンピュータからおすすめ情報が出る	13. 情報セキュリティに対する脅威と脆弱性
6. 情報を見える化する	14. 情報セキュリティ対策
7. データを読み取る	15. 個人情報の保護と活用
8. データの説明	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、次回講義で、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ、データサイエンスに関する理解を深め、関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また、コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%）、授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては、どれだけ多く考えたかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書をもとに講義するので「データサイエンス入門」（共立出版、豊田修一、樽井勇之）を必ず購入すること。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また、新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経済学基礎①②		講義	准教授 小松原 崇史	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120104 12220119 13220101	

1. 授業のねらい・概要

本授業では、経済学の中でも、とくにミクロ経済学についての基礎的な考え方を説明します。経済における一般的な法則を見出そうとすることが、ミクロ経済学の目指していることです。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行います。授業の理解を深めるため、問題演習を行うことがあります。なお、履修者の理解度に応じて、以下の授業計画を変更する可能性があります。

3. 授業計画

1. この授業の目的	9. 前半のまとめと復習
2. 市場とは	10. 市場均衡とは
3. 需要（需要曲線）	11. 市場均衡の変化
4. 需要（個人の需要と市場の需要）	12. 応用問題①（価格の規制）
5. 需要（需要曲線のシフト）	13. 応用問題②（薬物の取締）
6. 供給（供給曲線）	14. 応用問題③（農業の発展）
7. 供給（個人の供給と市場の供給）	15. 後半のまとめと復習
8. 供給（供給曲線のシフト）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習してください。そのためには、毎回1、2時間程度が必要です。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を、授業内に解説します。

6. 授業における学修の到達目標

目標は、経済学の基本的な考え方を、理解できるようになることです。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）によって、成績を評価します。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社、2019年）を使用します。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては直接注意を行い、改善が見られない場合には退学を求めます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

経営学基礎①②		講義	准教授 八木 孝幸	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの必修科目 救急救命士コースの必修科目	科目ナンバリング	11120105 12120103 13120102	

1. 授業のねらい・概要

英語で「経営（管理）する」という単語（動詞）である“manage”の本来の意味は、「（馬などを）手で扱う」すなわち「操る」というものであった。それが次第に、「（人を）巧みに扱う」という意味でも用いられるようになり、今では「事業などを所有者に代わって経営（管理）する」という意味でも用いられるようになった。

企業はよく船に例えられる。目まぐるしく変化する経営環境を海になぞらえ、その海で船を操り航海することが企業にとっての経営にあたるのである。船の規模が大きくなればなるほど、航海の際に船の位置の測定や海図を正確に読み取ることのできる航海士の存在が重要となる。同様に、企業でも経営を行うに際して様々な経営に関する知識を有する優秀な人材が必要となるのである。

この『経営学基礎』という講義は、広範な領域を有する「経営学」について、初学者を対象に体系的に分かり易く講義を行っていきこうという時間である。なお、講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずる。また、本講義の履修に関して特に制限はない。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、毎回板書をしながら講義を実施する予定である。

3. 授業計画

1. 会社とは	9. 企業の経営組織③（トップの役割）
2. 企業と経営①（経営資源）	10. 企業の人的資源管理①（5つのソフトなS）
3. 企業と経営②（オープン・システム）	11. 企業の人的資源管理②（欲求5段階説）
4. 企業の戦略①（成長と競争）	12. 企業の人的資源管理③（欲求体系の2要因説）
5. 企業の戦略②（全体と機能）	13. 企業の人的資源管理④（戦略ミドルの育成）
6. 企業の戦略③（ライフサイクル）	14. 企業の人的資源管理⑤（適材適所と人材形成）
7. 企業の経営組織①（ラインとスタッフ）	15. 企業統治とは
8. 企業の経営組織②（マトリックス組織）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで2時間以上の予習をしておくことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（あるいはレポート提出）の後、解答例等を掲示板に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

専門科目履修の際に、理解を促進するだけの経営学に関する基本的な知識修得を目標としている。

7. 成績評価の方法・基準

課題（定期試験やレポート等）の結果（50%）及び授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。ただし、課題（定期試験やレポート等）の結果が授業への取り組み姿勢の評価のいずれかが59点以下になった場合は、不可とする。

8. テキスト・参考文献

〈テキスト〉

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

〈参考文献〉

- (1) 高梨智弘『ビジュアル・マネジメントの基本』日本経済新聞出版社，1995年。
- (2) 高村寿一『ベーシック経営入門（第3版）』日本経済新聞出版社，2007年。
- (3) 武藤泰明『ビジュアル・経営の基本』日本経済新聞出版社，1994年。

9. 受講上の留意事項

座席表作成の都合上，履修学生は初回より必ず出席のこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

マーケティング基礎①②		講義	教授 大澤 秀一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120106 12220120 13220102	

1. 授業のねらい・概要

マーケティングは一言で言うと「買ってもらう仕組みづくり」です。顧客価値の創造と提供を行う経営活動の総称と表現することもできます。授業ではマーケティングの基礎を体系的に学びます（1 Semesterで完結）。市場分析、顧客ニーズの把握、価値ある製品・サービスの開発、戦略的な価格付け、宣伝と販売戦略、顧客エンゲージメントの獲得というプロセスを学んだ後、複数の業種・業界のケーススタディを取り上げることで実践的な知識を身に付けます。マーケティングを入口にしてビジネスに興味を持ち、学び続けるための基礎を習得することがねらいです。

2. 授業の進め方

授業は講義形態で行い、理解度を確認する小テストを3回繰り返しながら概ね以下の内容に沿って進めます。

3. 授業計画

1. 授業の概要説明	9. デジタルマーケティング ② SNS
2. マーケティングの分析フレームワーク	10. デジタルマーケティング ③ パーソナライズ
3. 市場分析/市場細分化/選定/ポジショニング	11. 第2回小テスト
4. マーケティングミックス ① 製品戦略	12. ケーススタディ ① 製造業
5. マーケティングミックス ② 価格戦略と③ 流通戦略	13. ケーススタディ ② 小売業
6. マーケティングミックス ④ プロモーション戦略	14. 第3回小テスト
7. 第1回小テスト	15. 総まとめ
8. デジタルマーケティング ① マイクロ	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前配布される講義資料を予習し、あらましを把握してから授業に臨んでください。授業内容の定着と論点整理のための復習も重要です。予習・復習に2時間以上かけて疑問点や不明点がなくなるまで学修してください。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各小テストの次の授業で出題の意図と解答のポイントを説明します。

6. 授業における学修の到達目標

メディアなどで報道されるマーケティング関連の情報を理解し、他の人と議論出来るようになることや、自らがマーケティングを学び続けるための基礎を習得することを目標とします。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組姿勢(50%)と小テストの結果(50%)によって評価します。

8. テキスト・参考文献

オリジナルの講義資料を使用します。必要に応じて参考文献などを適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

初回の授業で説明します。授業への主体的な参加を期待します。疑問や不明な点については、遠慮せずに授業などで質問しましょう。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、シンクタンクや金融機関における実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ概論①②		講義	教授 小笠原 正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目 スポーツトレーナーコースの必修科目 教職科目 柔道整復師コースの必修科目 教職科目 救急救命士コースの必修科目 教職科目	科目ナンバリング	11120107	11531110
			12120104	12531110
			13120103	13531110

1. 授業のねらい・概要

古来よりスポーツは人生を豊かにさせる「遊び」として生活に溶け込んできた。人生 100 年時代となった現代社会において、スポーツは、長い人生を元気に楽しく過ごす生活ツールとしての比重が増し、その価値が高まっている。私たち一人ひとりにはスポーツを形づくり（スポーツへの社会化）、スポーツは私たち一人ひとりを形づくる（スポーツの社会化）。政治・戦争・経済・宗教・人権問題・ドーピングなど、さまざまな矛盾を抱えた社会のなかでスポーツがこれまで歩んできたプロセスを学ぶことは、これからのスポーツと人間とのより良い関係性を論じる上で欠くことができないであろう。そこで、本講義では、主に近代オリンピックを題材として、スポーツの発展過程を社会の歴史的変化と絡めてスポーツの持つ役割や意味を理解し、スポーツを幅広く学習する。

2. 授業の進め方

スポーツの起源や概念を理解し、スポーツについてより深く学習する。関連のテキスト・資料を用いて、スポーツを広く様々な視点から捉えるとともに、必要に応じて映像を使用し、テーマに沿ったディスカッションなどを交えながら講義を進めていく。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス、講義の概要 スポーツの概念	9. 戦前のオリンピックにおける日本の活躍
2. イギリス発祥の近代スポーツの起源とその発展	10. 戦後のオリンピックとオリンピック東京招致
3. フットボールから派生したサッカー・ラグビー	11. 高度経済成長と 1964 東京オリンピック
4. アメリカ発祥の近代スポーツの起源とその発展	12. 近代オリンピックの抱える矛盾
5. 日本古来のスポーツと近代化	(人権問題・テロリズム・肥大化・ボイコット)
6. 日本の近代スポーツの普及	13. オリンピックの商業化 (1984 ロス五輪)
7. 古代オリンピック	14. 近代オリンピックの発展
8. オリンピックの復興と近代オリンピック	15. 講義のまとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストを活用して予習し、講義内容を復習しておくこと。これらの準備学修には、1 時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回に行う課題については数例を紹介するとともに、期末レポートについては、実施後に解答などを掲示板等に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、現代社会におけるスポーツの在り方について学習し、スポーツの意義や文化的な価値を理解するとともに、スポーツを様々な視点から考える力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況 (50%)、および期末レポート (50%) により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志：「健康生活とスポーツ」（SIS, 2024）

参考図書：「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ」（財団法人 日本体育協会）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、企業における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

必修英語 A		講義	教授 吉田 英二郎 講師 ジェリー・ブッシュ 講師 松本 秀樹 講師 村元 エリカ マリア	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコース・スポーツ トレーナーコースの必修科目 スポーツマネジメントコース・スポーツ トレーナーコースの教職科目 柔道整復師コースの必修科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの必修科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11110101 11510106 12110101 12510106 13110101 13510106	

1. 授業のねらい・概要 Course Aims

The aim of Core English is to increase students' ability to communicate in English about daily life topics and current events. This course also aims to provide a foundation for further English study, such as for the EIKEN or TOEIC tests, or for traveling abroad.

2. 授業の進め方 Course Progression

Students will have Core English twice per week. They will be with the same classmates and have the same instructor for the whole year. In each class, students will engage in topic-based conversation, listening, grammar and vocabulary exercises aimed at increasing their knowledge of the world through the medium of English, and improving their English communications skills.

3. 授業計画 Course Schedule

<u>Week</u>	<u>Week</u>
1. Self-Introduction	1. Airport and Public Transportation
2. Time	2. The Human Body
3. Money and Shopping	3. Illness, Injuries, Symptoms, and Disabilities
4. Classroom Activities	4. Hospital and Pharmacy
5. School and Computers	5. Jobs and Working
6. Family and Life Events	6. Office and Factory
7. Daily Activities	7. Weather
8. Feelings	8. Energy, Pollution, and Natural Disasters
9. Places Around Town and Shops and Stores	9. The United States and Canada
10. Post Office and Library	10. The World and the Universe
11. Crime and Justice	11. Math and Science
12. House and Home	12. Writing
13. Food and Cooking	13. Explore, Rule and Invent
14. Restaurant and Fast Food	14. Film, TV and Music
15. Clothes, Shoes and Accessories	15. Sports and Recreation

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

Students should spend 20-30 minutes reviewing notes and materials from previous classes and preparing for the next lecture.

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Each instructor will have their own method of evaluating and testing each student. All testing formats and procedures will be decided by each instructor.

6. 授業における学修の到達目標

1. To develop English communication skills.

2. To use English to talk about various topics.
3. To study with a native-speaker or fluent Japanese teacher.
4. To learn English by using English.
5. To enjoy English.

7. 成績評価の方法・基準

Grades will be based on: Test score 60% Class participation 20% Quizzes and assignments 20%

8. テキスト・参考文献

Classroom set textbooks, reference and other materials will be announced by each instructor.

9. 受講上の留意事項

Between classes, it will be beneficial to students if they attempt to use authentic English through reading and listening to various media sources on topics that suit their interests.

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

This course does not require any correspondence.

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

As described in the subject column above.